

## さらなる津市の発展を願って

### 津市議会

新年、明けましておめでとうございます。

皆さまの輝ける1年の幕開けを、心よりお喜び申し上げます。

昨年、津市議会は市民の皆さまの負託を受けて新たな体制でスタートし、津市総合計画にもうたわれる「環境と共生し、心豊かで元気あふれる美しい県都」の実現のため、鋭意取り組んでまいりました。

今年は、平成18年1月の市町村合併から10年目という節目の年となります。

重要施策の一つであります新斎場「いつくしみの杜」は、今月から供用を開始し、新最終処分場やJR名松線の復旧など、これまで活発に議論を重ねてきましたプロジェクトは、いよいよ最終段階へと進んでまいります。

一方、昨年8月の台風第11号では、津市に初めての大雨特別警報が出され、これまでの防災対策の検証と、さらなる取り組みの必要性を知る機会となりました。また、国における「まち・ひと・しごと創生法」の成立を受けて、各自治体においても今後の国の動きに注視し、地域の特徴を生かした、自立し持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みが求められることとなりました。

合併から10年目を迎え、これら諸課題の解決をはじめ、市民の皆さまが安全で安心して暮らせるまちづくりのため、市民の皆さまと心を合わせ進めてまいりたいと考えております。

さて、津市議会では、昨年の第4回津市議会定例会から、本会議での傍聴を希望される障がいのある人に、手話通訳や要約筆記の制度を整えました。市民の皆さまに、より分かりやすく開かれた議会を目指し、少しでも傍聴していただきやすい環境づくりに努めております。

今後もさらなる議会の改善を推進し、津市議会の持つ力を十分に発揮することで、市民の皆さまから、より信頼される議会を目指してまいります。

この一年が皆さまにとりまして、希望に満ちた輝かしい年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。